



身近な仲間に恵まれていま思うこと
——建築写真家というフィルターを通して——

富田真二

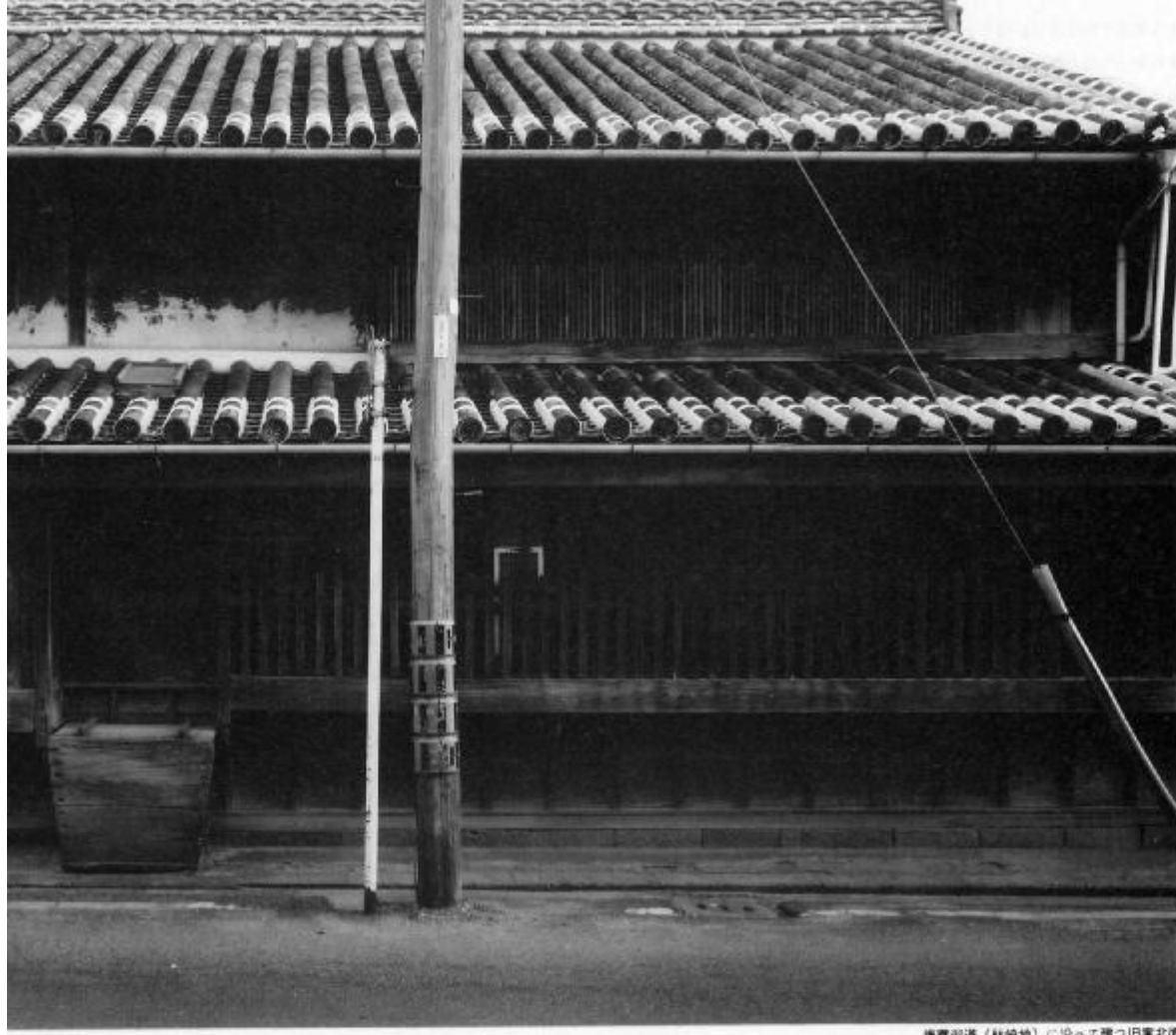
今回取り上げていただいた6名と残り8名、計14名の徳島設計グループのまとめ役をやっている。まとめて役といえば聞こえが良いが、年齢も経験も違う個性の強い連中ばかり、一番当たり障りのない奴と言ふことで決まったようである。それでも僕なりに結構この役をエンジョイしている。2年ほど前から何となくひとり、ふたりと増えてきてできあがったグループであり、会則もなければその会員すらもなく何の力も持つてはいないが、建築に傾ける情熱だけは表現こそ違え一致したところである。作品やそのアルバムを見せ合い討論を交わしながら、いまではかなり本音でいい合える仲間になってきた。今までほとんど意識すらしなかった仲間に強烈なパンチを喰らう、こんな身近にこんな凄い奴がいることを知り、ただただ焦燥感の中で敗北を嘆み締め

たり、同じ次元でもがき苦しんでいる仲間に自分の姿を垣間見たり、仲間を通して自分の進むべき方向を再度見つめ直している。

この8月でわが一人事務所も6周年を迎えることになるが、当初から不安だらけの出発だった。最初の仕事はいとこの家でフェリーに乗って西宮に通ったこと、東京の設計事務所の徳島での作品の監理をさせたこと、業者からの依頼に何か自分のものを提案したいと焦った下請時代(いまも続いている)のこと、前の会社の上司からBLJ(ペターリビング)申請のプロジェクトチームの一員にと呼び戻してくれたこと、こんな回りの人たちの援助で何とか「建築に対する情熱」だけは残していた。そんな時、建築写真家の大竹静市郎氏との出会いがあった。氏の熱いまなざしと言葉は、あの時の自分には、まさに力強い励ましており、あれはどの場所をおぼえたことはなかった。1対1の設計から1対10万いや1対無限の設計にもなっていくことを教えられ、対建主のみの妥協な解決を深く反省させ

られた。こんなことがあって徳島での氏の撮影現場にはできるだけ足を運んだ。仲間の作品を見るまたとないチャンスだし、氏の一瞬に賭ける執念を見て自分の活力にもしたかった。こんな氏への共感と、同じ同僚意識が仲間との距離を一気に縮めてくれた。

14人も集まればそれこそ設計者の品評会のようなものすべてのギャリエーションが綱羅されているのではと錯覚に陥ってしまう。僕には作品をみるとより人そのものをみる癖が以前からあり、その尺度が視野を狭めていたくらいがある。波長の合むぬもの、違う世界の人間として、自分の回りから遠ざけていた。今回の出会いが建築イコール人間観のスケールを変えて抱市観・世界観といったような何か新しい見方を示唆しているように思てならない。ひさう(個人)の建築という日々の創造作業の中で、唯一の機会どころは風景としての建築にいま自分は携わっているという自負である。自負というよりも責任感・使命感といったほうが近いかも



黒瀬街道（林崎地）に沿って走つ旧家北面

知れないが、ひとつひとつの建築が形成するランドスケープに思いを馳せながらの作業である。このグループの中で街づくりに取り組んでいる佐藤さんら4人、住民とのふれあいの中で難題に取り組み実践している献身的な姿に自分にはないスケール感を感じた。彼らのような気持ちがなかったら人の心に残る建築は本当はできないのかも知れない。心を打つ建築から心に残る建築への道標にしたい。自己防衛本能ばかりが目立つ街並み、大都市ではもう手遅れかも知れないが25万人の町徳島には健全な土地（環境）も人情もまだまだ残されている。この地で生きる一住人として愛され慕われる存在になれたらときが、本当の意味での建築家になれるときだと思う。そのときに答えられるようにいま勉強し着積しなければと思う。松崎町での石山修武氏の姿を模範として……。個人として取り組んでいた仲間にもいろんな奴がいる。一見自分と同じように見える奴が実はまったく違っていたり、違うと思っていた奴と同じ一面を見たり、知れば知るほど作品

も違う側面から見えるようになりおもしろい。この身近な仲間を日々意識しながら進んでいけばきっと大きな過ちは犯さないでいると思う。僕は僕で焦らずにじっくりと問い合わせを忘れずに取り組み、人間としての成長も忘れて生きてゆけばきっと自分の使命が見えてくると確信した。いま問い合わせていることは、窮屈でない家、あぐらのかける家である。友や近所の人が何とはなしに集まってくれる家、そんな空間を創ってみたい。僕の家は昔旅館と食堂をやっていていつもお客様や近所の人がそばにいた記憶がある。あの薄汚れた大きな火鉢、こぎりの傷跡が痛々しい柱時計の掛かった大黒柱、交換手を通さないとかからない壁かけの電話機、そしてみんなで応援した力道山のテレビの置かれていた茶の間、いまも鮮明に覚えている。でも、ないものねだりでは解決できない現状の中で、いま残せるもの残さなければいけないものをしっかりと見つめていきたい。昔の人の言葉に男が大成するには三つのことができなければならないと言う。

一つはその仕事が好きになること、もう一つは近くの人を愛すること、最後の一つは女房を愛することだと言う。いまその言葉が気にかかる。

大分の首藤広剛さんの家の家（『住宅特集』1987年12月号）には心底感動した。中村好文さんの秋穂のアトリエ（『住宅特集』1987年9月号）も爽やかで気持ちよかった。出雲の龜谷清さんの住宅5題（『住宅建築』1988年6月号）もじっくり取り組んでいて好きだ。このような作品は地方からの爽やかなメッセージとして身体の中にまで入ってくる。とても心地よい。勇気づけられる。お返しのメッセージを送りたいのだ。徳島にもこのグループ以外にもっともっと優しい奴がいると思う。身近な仲間と交流を増やし次のステップにしていきたい。誰とはなしに呼び出した「大竹グループ」、最後に（編集長の言葉をお借りして）撮影の旅入その大竹静市郎さんをねぎらって乾杯といこう!! ありがとう大竹さん!!

とみた・しんじ／富田建築設計室主宰

特集：徳島の住宅

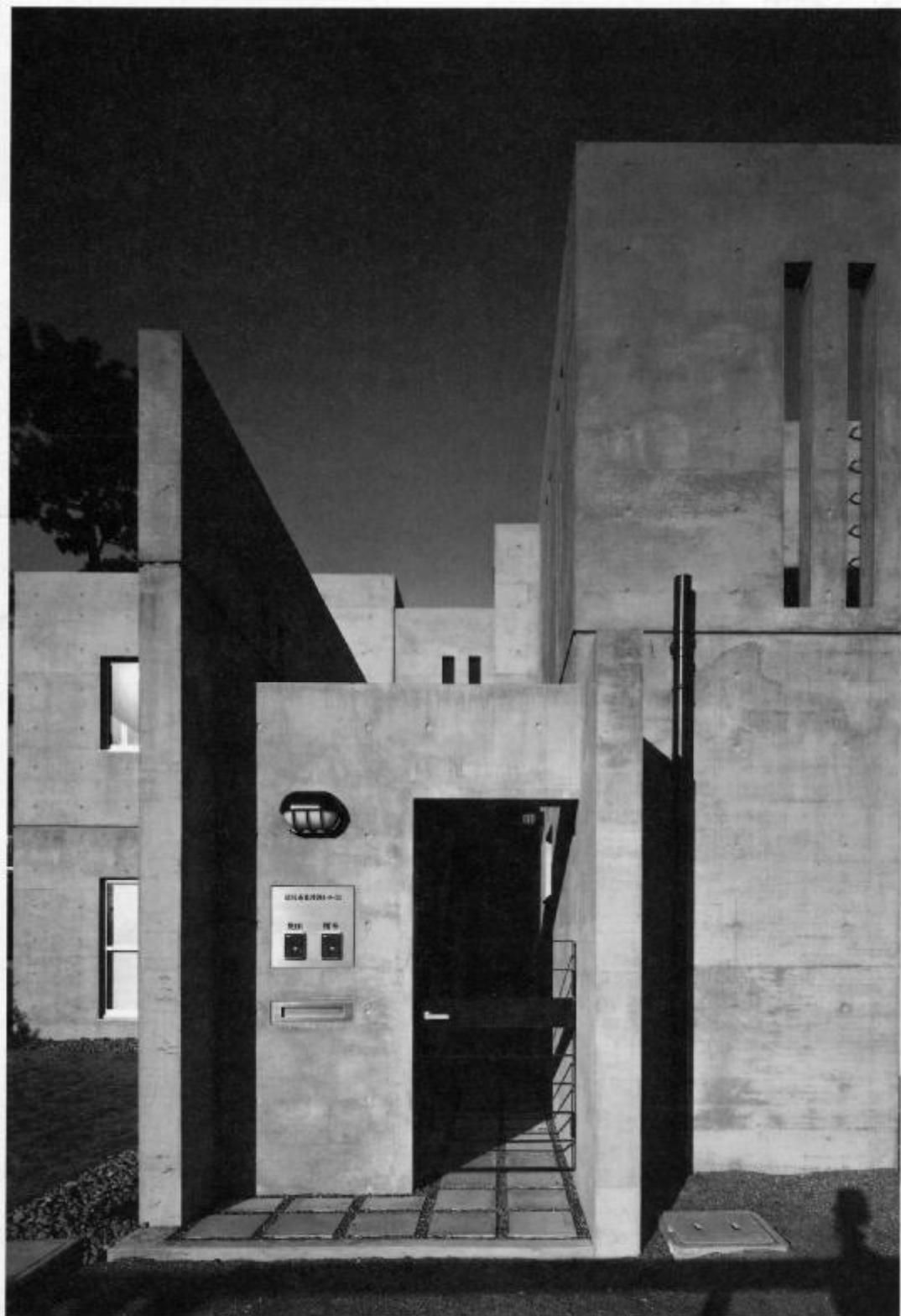
北沖洲の家

徳島県徳島市

設計＝富田建築設計室

写真＝大竹静市郎

施工＝新井建設



▲写真82頁：入口周り外観

▶写真83頁：アプローチ





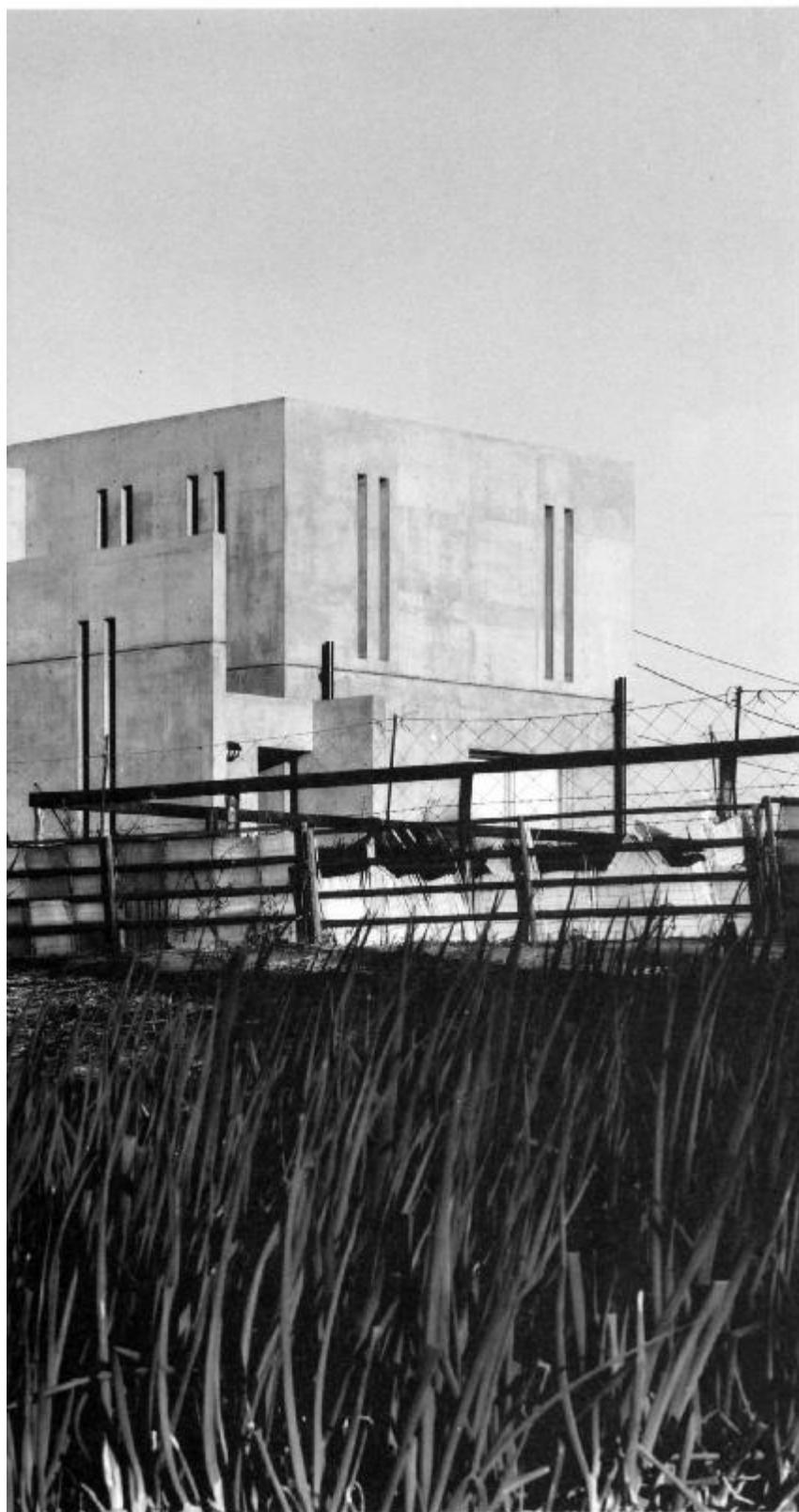
▲写真84-85頁：南西側よりみる外観

この住宅は徳島市の東端に位置し、夏には海水浴客でにぎわう南北に走るウォーターフロントから70mほど入った小高い丘の上にある。30年ほど前に別荘として使われていた木造の建物を購入された時は防風林に囲まれていたが、ここ3~4年の松唄い虫による被害はひどく、紀伊水道からの風雨をま

ともに受けることになってしまったのがこの住宅をRCで造らせるきっかけになった。回りは住宅がかなり建ち並んできてしまっているが砂地の畠や空地も随所に残っており、南国特有の台風さえなければ何とものどかな光景である。新築を機に娘さん夫婦と一緒に住もうということになり、建主は父親である

が知人であるその娘さん（一人娘）からの設計依頼であった。1階は両親のスペース、2階は娘さん夫婦とその子供たちのスペースと、上下階で分かれているが気やすい実の母娘のこと。食堂の吹抜けを通して生活は一体になる。二つの居間を繋ぐ半円形の階段とその中心にある暖炉がこの住宅のテ

ーマである。天井を突き抜ける黒い煙道は、コンタクトパイプとしてまた大黒柱そのものとして芯に据え。みんなが寄り添う暖かの近くに仏壇を飾ることでこの家族の心情を表現した。2階の居間からは水平線が見え、今年は家族で初日の出を眺めたそうだ。内部は一体であるが、アプローチは明



確に2世帯住宅の形態をとった。普通ならこの家族に二つの玄関は無意味であるが、これは父親が朝の早い卸売市場勤務、娘さんのご主人が不規則な勤務時間の長崎駿ドライバーと、生活時間帯の違いへの配慮とご主人の友人への配慮でもある。外部階段をのはりきって振り返れば、市のシンボルマ

ウント、標高277mのおだやかな尾根が眉に似ている眉山が西に見える。ほんやりと霞んでいる日は傘を持ってでかける阿波っ子の氣象庁もある。1階玄関ホールの光庭は、僕の友人である品川さんに少ない予算で無理を言ってお願いした。彼はすぐに富士山の熔岩のことと思い出し、家に少し残

っているからそれを持ってくるよと言ってくれた。そんな訳で光庭以外は全て見送りになってしまった。僕の設計はこんな調子で詰めが甘い。いつもみんなに助けられている。数えれば切りがない。

この住宅が竣工した年、この家族に大きな出来事があった。それは工事中

の祖母の死と年末の長男将大君の誕生である。竣工当時、半円形の階段と暖炉の回りをはしゃぎながら何回も何周もしていた長女愛美ちゃんの後ろを将大君が追い掛けるのもそう遠いことではないだろう。(富田真二)

写真85真上：2階玄関
写真85真下：南側外観



△配置図







◀写真86頁：両親のスペースの食堂

▲姫さん夫婦の空間と両親のスペースをつなぐ半円形の階段





◀写真86頁：と下の図類をつなぐ半円形の階段と壁面

▼階段のスペースの居間 ▲2階の娘さん夫婦の居間

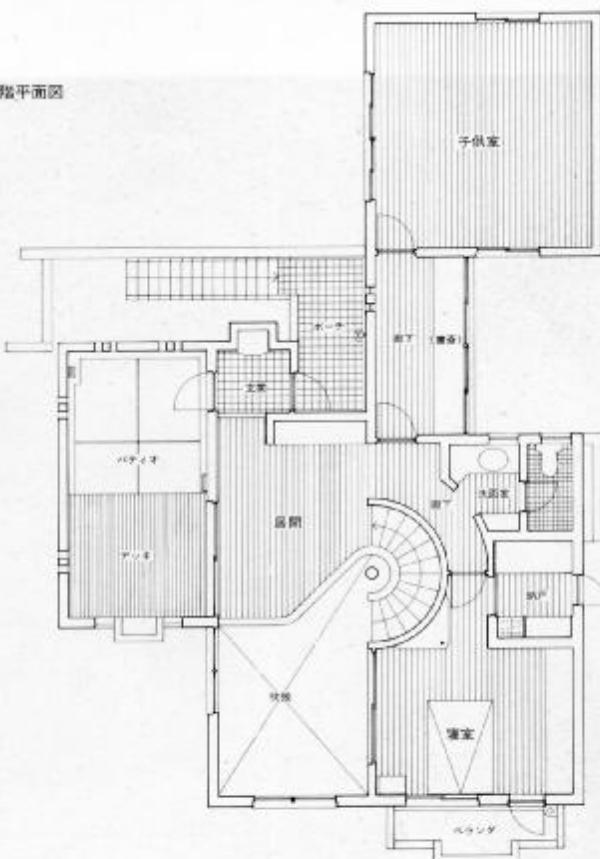




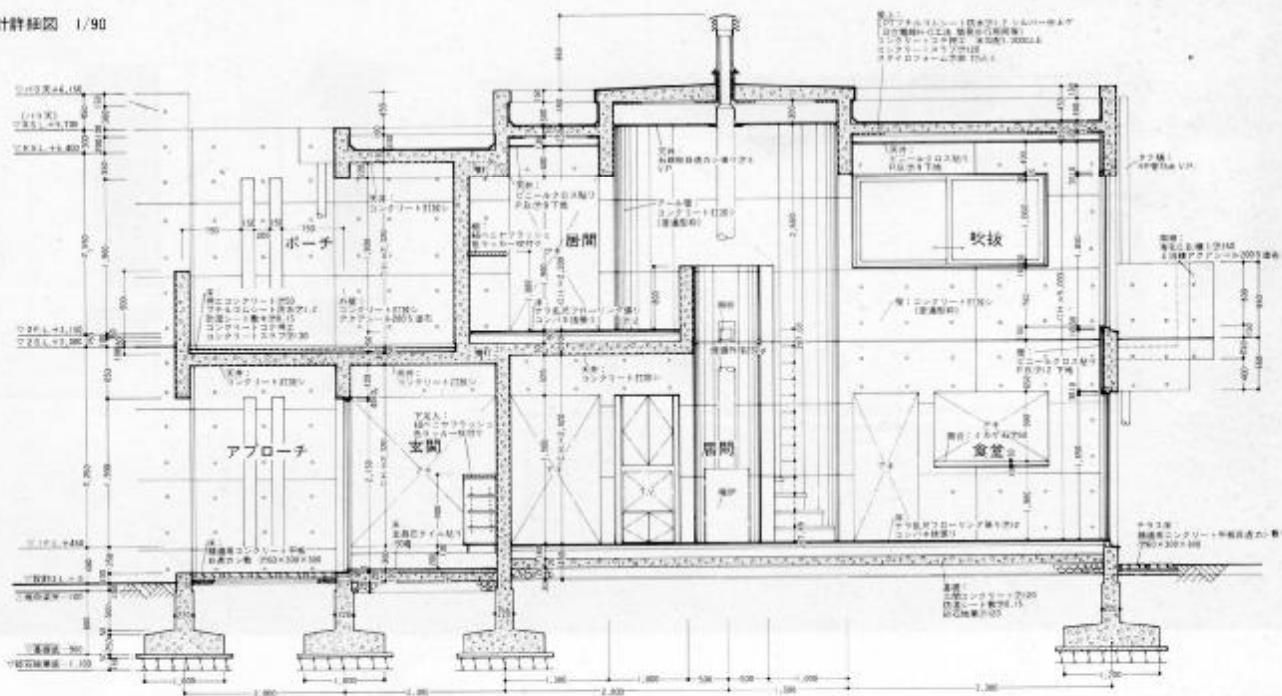
▽ 1階平面図 1/150



▽ 2階平面図



▽ 断面詳細図 1/90



[資料]

北沖洲の家

所在——徳島県鳴門市北沖洲

家族構成——夫親+娘夫婦+子供2人

●設計——富田建築設計室(担当: 富田真二)

構造設計——第一総合建設設計事務所(担当: 緒方敏朗)

設備設計——芳地設備設計室(芳地静雄)

元庭——あり過庭企画(担当: 岩川哲夫)

●施工——新井建設(担当: 新井博和, 多田和久, 田上均)

竣工——1987年10月

構造規格——壁式鉄筋コンクリート造2階建

●面積

敷地面積——293.21m² 建築面積——117.80m²延床面積——190.22m²(1階: 111.70m², 2階: 78.52m²)

建蔽率——60% 容積率——200%

地域地区——準工業地域

●主な外部仕上げ

屋根——コンクリートスラブ直押えの上屋易歩行雨シート防水シルバーワーク

壁——コンクリート打放しの上アクリル?200S塗布

建具——アルミサッシュ(シルバー)

●主な内部仕上げ

1階天井——玄関・ホール、居間、台所、コンクリート打放し

リート打放し、食堂、吹抜け、和室6帖+ヒル石吹付け、和室6帖+ヒル石吹付け

かし張りVIP

2階天井——玄関、居間、寝室、書斎、子供室

コンクリート打放し

1階壁——玄関・ホール、階段室/コンクリート打放し

居間、食堂/コンクリート打放し

1階天井——一部ビニールクロス貼り

書斎——半蔵器タイル貼り一部ビニールクロス貼り

和室6帖、和室6帖/もみクロス貼り

2階壁——玄関、書斎、子供室/コンクリート打放し

居間、寝室/コンクリート打放し

1階天井——一部ビニールクロス貼り

1階壁——玄関/玄昌石タイル貼り150角

ホール、天井、食堂、台所/ナラ乱

足フローリング張り 和室6帖、8帖

量/タミ敷 階段室/メラピー、

ボリュウラン塗り

2階床——玄関/玄昌石タイル貼り150角

居間、寝室、書斎、子供室/ナラ乱

足フローリング張り

●設備

暖房——壁炉(ヨツル・バイス4/トコナメ)

給湯——石油給湯器(風呂釜付き)

廚房換気システムキッチン(ヤマハ)

●工費

建築——1,900万円

設備——400万円

外構——60万円(整体+一部造園含む)

総計——2,360万円